

SINFONIA VARSOVIA

© Bartek Barczyk

シンフォニア・ヴァルソヴィア



IVO
POGORELICH

ピアノ イーヴォ・ポゴレリッチ

© Andrej Grlic

ポーランドの名門オーケストラと人気の実力派ピアニストによる
ショパンのピアノ協奏曲「第1番」&「第2番」を一夜で!

東海東京証券 presents

シンフォニア・ ヴァルソヴィア

with イーヴォ・ポゴレリッチ & 小林 愛実

PROGRAM

ベートーヴェン: 歌劇「フィデリオ」序曲 Op.72

ショパン: ピアノ協奏曲 第2番 ヘ短調 Op.21 (ポゴレリッチ)

ショパン: ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 Op.11 (小林)

AIMI
KOBAYASHI

ピアノ 小林 愛実

© Shuhei Tsunekawa

CHRISTIAN
ARMING

指揮 クリスティアン・アルミンク

© Shumpei Ohsugi

10/7 火 18:45開演 (18:00開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

S席 20,000円	A席 17,000円	B席 14,000円
C席 10,000円	D席 8,000円	

※車椅子(S席)のお客様はご購入前にアイ・チケットまで必ずお問合わせください。

※入場料金には消費税が含まれます。

※やむを得ない事情でプログラム内容、出演者が変更になる場合がございますのでご了承ください。

※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

チケットのお求めは 一般発売 4月12日(土)10:00~

- アイ・チケット 0570-00-5310
<https://clanago.com/i-ticket>
- チケットぴあ <https://t.pia.jp> + プコード 294-602
- ローソンチケット <https://l-tike.com> + ｺｰﾄﾞ 41151
- e+(イープラス) <https://eplus.jp>
- 芸文プレイガイド 052-972-0430
- 名鉄ホールチケットセンター 052-561-7755
- 栄プレチケ92 052-953-0777
- CBCチケットセンター <https://www.funity.jp/cbc-ticket/>

お問合せ

CBCテレビ 事業部

TEL (052) 241-8118

10:00~18:00
(土・日・祝日休み)



主催 / CBCテレビ 特別協賛 / 東海東京証券



令和7年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

東海東京証券 presents シンフォニア・ヴァルソヴィア

with イーヴォ・ポゴレリッチ & 小林 愛実



Pianist

イーヴォ・ポゴレリッチ

Ivo Pogorelich

1958年ベオグラード生まれ。数々の国際コンクールでの優勝に続き、1980年のショパン国際ピアノコンクールでの落選とそれに抗議して帰国した審査員のひとり、アルゲリッチの「だって彼は天才よ!」という言葉によってポゴレリッチは一躍脚光を浴び、たちまち世界的に名を知られることになった。1981年の

カーネギーホールでのデビュー以来、世界中で活躍し、リサイタルのほかにも、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロンドン響、パリ管、シカゴ響、ボストン響などと共演を重ねてきた。

教育にも熱心でクロアチアには財団を、ドイツのバート・ヴェリスホーフェンではポゴレリッチ音楽祭を設立し、若い音楽家たちに多くの演奏機会を与えている。また赤十字やサラエヴォ再建、癌や硬化症と闘う人のために多くのチャリティ・コンサートを行っている。1988年にはユネスコから親善大使に任命された。

1981年、ドイツ・グラモフォンから録音デビュー。10数点のCDリリースはいずれも人気を博した。1995年以来録音が途絶えたが、2019年にソニーと契約、ラファニノフ&ベートーヴェン、そして2022年2月にはショパン・アルバムが発売され、反響を呼んでいる。

数年間の療養を経て2005年に6年ぶりの来日を果たして以来、定期的に来日している。演奏について、聴衆や専門家の間でいつも論争が起きる中、彼の演奏には型破りな内にも統一された秩序があり、今や復活を果たしたことを聴衆に印象付けている。



Conductor

クリスティアン・アルミンク

Christian Arming

ウィーン生まれ。ウィーン国立音楽大学でレオポルト・ハーガーに学んだあと、小澤征爾のもとで研鑽を積み、ボストン交響楽団や新日本フィルハーモニー交響楽団にデビュー。チェコのヤナー・チェク・フィルの首席指揮者、スイスのルツェルン

歌劇場およびルツェルン交響楽団の音楽監督などを経て、2003～2013年に新日本フィル、2011～2019年にベルギー王立リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督として活躍。2017年から広島交響楽団の首席客演指揮者を務め、2024年に同団の音楽監督に就任した。

これまでにチェコ・フィル、ベルリン・ドイツ響、フランクフルト放送響、ザルツブルク・モーツァルテウム管、ウィーン響、ベルギー国立管、トゥールーズ・キャピトル国立管、スイス・ロマン管、ローマ・サンタ・チェチリア国立管などヨーロッパのトップ・オーケストラと共演。ほかにも、ボストン響との再共演のほか、シンシナティ響、ヒューストン響、アトランタ響、N響、上海響など多くのオーケストラに招かれている。

オペラではフランクフルト歌劇場やストラズブル歌劇場などで《ドン・ジョヴァンニ》《サロメ》《ホフマン物語》などを指揮。新日本フィル時代には《レオノーレ》《フィレンツェの悲劇》など、オペラ・プログラムにも積極的に取り組んだ。また、2019年には小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトで小澤征爾と共に《カルメン》全4公演を指揮した。レコーディングも数多く、ヤナー・チェク・フィルとのヤナー・チェク・シューベルト作品、新日本フィルとのブラームス／交響曲第1番、マーラー／交響曲第3番および第5番、リエージュ・フィルとのフランク／交響曲二短調などをリリース。また、シルバ・オクテット、リエージュ・フィルとの共演によるディスクがドイツ・グラモフォンからリリースされた。



Pianist

小林 愛実

Aimi Kobayashi

2021年10月「第18回ショパン国際ピアノコンクール」第4位入賞。

1995年山口県宇部市出身。3歳からピアノを始め、7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューを果たす。

これまでに、スビヴァコフ指揮モスクワ・ヴィルトウオーゾ、ブリュッヘン指揮18世紀

オーケストラ、ジャッド指揮ブラジル響、ボスカ指揮チューリヒ・トーンハレ管、ソビエフ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管など国内外における多数のオーケストラと共演。

2010年14歳でEMI ClassicsよりCDデビュー。サントリーホールで日本人最年少となる発売記念リサイタルを開催した。翌2011年にはセカンドアルバム「熱情」をリリース。

2015年10月「第17回ショパン国際ピアノコンクール」ファイナリストとなった。

2018年4月、ワーナー・クラシックスよりCD「ニュー・ステージ〜リスト&ショパンを弾く」をリリース。同年8月には、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭に出演し好評を得た。

2021年8月 ワーナー・クラシックスよりCD「ショパン：前奏曲集 他」をリリース。2024年11月に最新CD「シューベルト：4つの即興曲 作品142、ピアノ・ソナタ第19番 ハ短調、ロンド イ長調（連弾）他」をリリース。

フィラデルフィア・カーティス音楽院で、マンチェ・リュウ教授のもと研鑽を積んだ。

2022年3月、第31回回光音楽賞受賞。



Orchestra

シンフォニア・ヴァルソヴィア

Sinfonia Varsovia



Ministerstwo Kultury i Dziedzictwa Narodowego



INSTYTUT ADAMA MICKIEWICZA

ポーランド共和国文化・国家遺産省助成事業
「2025年大阪・関西万博（EXPO 2025）開催期間の日本におけるポーランド文化促進プロジェクト」

1984年、ユーディ・メニューインがポーランド室内交響楽団を母体として設立した管弦楽団。メニューインが初代音楽監督を務め、設立当初からアメリカ、カナダ、ヨーロッパはもとより、アルゼンチン、チリ、ブラジル、南アフリカ共和国、香港、台湾、日本、韓国など世界中を周り、高い評価を得ている。これまで、クラウディオ・アバド、ミシェル・ブラッソン、シャルル・デュトワ、ヴィルト・ルトスワフスキ、マルタ・アルゲリッチ、アルフレッド・ブレンデル、ラド・ルプー、アレクシス・ワイセンベルグ、ジェームズ・ゴールウェイ、ギドン・クレーメル、マレイ・ペライア、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、キリ・テ・カナワ、フランク・ペーター・ツィンマーマン、ホセ・カレーラス、ブランド・ドミンゴ等、世界一流の音楽家と共演。

1997年、長年オーケストラと親交のあった作曲家・指揮者のクシシュトフ・ペンデレツキを音楽監督に迎え、ペンデレツキ自身の作品を演奏・録音。2001年から2004年には、世界的に有名なテノール歌手ホセ・クエラが首席客演指揮者を務めた。2008年にはマルク・ミンコフスキを音楽監督に迎え、ペンデレツキは芸術監督に就任。2010年、ショパンの生誕200年を記念し、ワルシャワで開催される世界最大級の音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」には、ホスト・オーケストラ役として参加する。

1996年にはメニューインの80歳の誕生日を記念して、彼自身の指揮によりベートーヴェンとシューベルトの交響曲全集をIMGレコードから発表した。

2000年以降、ポーランド音楽界の発展と若手音楽家の育成、オーケストラ演奏の普及を目的とする「シンフォニア・ヴァルソヴィア財団」が、同オーケストラの国内外の活動を全面的に支援している。また同オーケストラはワルシャワのスタニスワフ・グイトキエヴィチ・アーツ・センター・スタジオの助成も受けている。